

戦略的情報通信研究開発推進制度（SCOPE） 成果発表会（第2回） プログラム

開催日：平成18年6月19日(月)
開催場所：大手町サンケイプラザ（東京都千代田区大手町1-7-2）
参加費：無料

（開場：9：30）

開会あいさつ 10：00～10：10
総務省大臣官房技術総括審議官 松本 正夫
SCOPE プログラムディレクター 東倉 洋一

特別講演 10：10～10：35
『ユビキタス・ブロードバンド社会の技術課題と展望』
東京大学 国際・産学協同研究センター 安田 浩 教授

オーラルセッション 10：45～16：00

会場 A

課題番号	課題名	研究代表者
------	-----	-------

セッション1：次世代ネットワーク技術1（10:45～11:45）		
次世代NW1	領域知識に基づくブロードバンド・ネットワークシステムの利用支援技術の研究開発	東北大学 曾根 秀昭
次世代NW2	自律ノードの制御に基づくセキュアなコンテンツ流通基盤に関する研究	東京工業大学 酒井 善則
次世代NW3	光パースト通信に対応する光ファイバ増幅器に関する研究	古河電気工業(株) 加木 信行
次世代NW4	ユーザ指向タイムクリティカルネットワークの研究	国立情報学研究所 山田 茂樹

セッション3：次世代ネットワーク技術2（11:50～12:50）		
次世代NW5	超高速フォトリックネットワーク用光スイッチデバイスに関する研究開発	山梨大学 武藤 真三
次世代NW6	次世代モバイル通信ネットワークのトラフィック特性および構成法・制御法	東京電機大学 小林 岳彦
次世代NW7	IPv6 やセキュリティを考慮した高性能基盤アプリケーションの研究開発	(株)東芝 神明 達哉
次世代NW8	ナノフォトニクスによる超高集積光ノード技術の研究	東京大学 大津 元一

（休憩 12：50～13：40）

会場 B

課題番号	課題名	研究代表者
------	-----	-------

セッション2：次世代ヒューマンインターフェース（10:45～12:15）		
次世代HI1	情報通信インターフェースとしてのユビキタスパターン認識	北海道大学 工藤 峰一
次世代HI2	ワイヤレス薄型磁気マーカを用いた指のモーションキャプチャシステムの開発	東北大学 藪上 信
次世代HI3	視覚の環境適応性とアピランス認識に基づく表示再生技術の研究	千葉大学 三宅 洋一
次世代HI4	視聴覚情報の統合に基づくアクティブインタラクションに関する研究	電気通信大学 金子 正秀
次世代HI5	しなやかなヒューマンインターフェースを実現する右脳・左脳統合アーキテクチャVLSIの開発研究	東京大学 柴田 直
次世代HI6	実体に基づいたプロアクティブ・ヒューマンインターフェースに関する研究開発	九州大学 長谷川 勉

セッション4：バイオ IT 技術（12:20～12:50）		
バイオ1	遺伝子の複製、転写制御機構における蛋白質相互作用パスウェイ抽出とその多体の協調動作メカニズムを利用した高信頼性システムに関する研究	東京大学 井原 茂男
バイオ2	脳-機械直接通信型インターフェイス・システムに関する研究開発	京都大学 櫻井 芳雄

会場 A

課題番号	課題名	研究代表者
------	-----	-------

セッション5：量子情報通信技術1（13:40～14:40）		
量子 1	量子統計物理学的シミュレーションによる量子ビット回路の最適化	東京大学 伊藤 伸泰
量子 2	純粋及び混合状態信号に対する量子符号化/復号化の極限特性とその実現に関する研究	愛知県立大学 白田 毅
量子 3	半導体量子ドットを用いた単一光子対状態の生成と、量子画像伝送技術の開発	東北大学 枝松 圭一
量子 4	量子測定、量子通信、量子計算における精度、擾乱、情報量、計算量、エンタングルメントの相互関係に関する数理解析的研究	東北大学 小澤 正直

セッション7：量子情報通信技術2（14:45～15:45）		
量子 5	微小球共振器を用いた量子位相ゲートの実現に関する研究	北海道大学 竹内 繁樹
量子 6	1550nm 帯量子もつれ合い状態の効率的な生成・検出、及び、その利用に関する研究	産業技術総合研究所 土田 英実
量子 7	超短パルスレーザーを用いた光の量子状態の制御 - 時間領域量子テレポーテーションの実現 -	学習院大学 平野 琢也
量子 8	連続量子テレポーテーションの研究 - その高性能化 -	東京大学 古澤 明

会場 B

課題番号	課題名	研究代表者
------	-----	-------

セッション6：国際技術獲得型研究開発（13:40～14:40）		
国際 1	次世代超高速赤外線通信システムの研究開発	早稲田大学 松本 充司
国際 2	広帯域移動伝搬のモデル化に関する研究開発	日本テレコム(株) 藤井 輝也
国際 3	IP電話網における知覚QoS評価法の研究及び国際標準化	筑波大学 北脇 信彦
国際 4	新しいネットワークサービスを創出するIPv6エニーキャスト通信アーキテクチャの研究開発	大阪大学 村田 正幸

セッション8：無線技術・宇宙通信技術（14:45～16:00）		
無線・宇宙1	大規模空間多重化通信とセキュリティ技術に関する研究開発	金沢大学 北川 章夫
無線・宇宙2	ミリ波帯光 SSB 変調器の開発と Radio-On-Fiber システムへの応用	大阪大学 岡村 康行
無線・宇宙3	準静止衛星搭載用ミリ波フェーズドアレイアンテナに関する研究	金沢工業大学 片木 孝至
無線・宇宙4	簡易再生中継方式による衛星通信の高速・高能率化に関する研究開発	名城大学 小川 明
無線・宇宙5	大容量移動体通信衛星用超マルチビームアンテナ給電システム高機能化の研究	日本電信電話(株) 上羽 正純

都合により、順番等が変更になることがあります。

ポスターセッション 16:00～17:30

（「若手先端 IT 研究者育成型研究開発」の発表のみ 15:00 から開始）

- オーラルセッションにて発表した研究開発課題を含め、平成 17 年度に終了したすべての課題(45 課題)について、研究実施者がポスターを使って説明します。
- 「若手先端 IT 研究者育成型研究開発」において実施した研究開発課題（下表ご参照）については、ポスターセッションでのみ発表します。
- すべてのポスターの掲示は 12:00 から開始します。

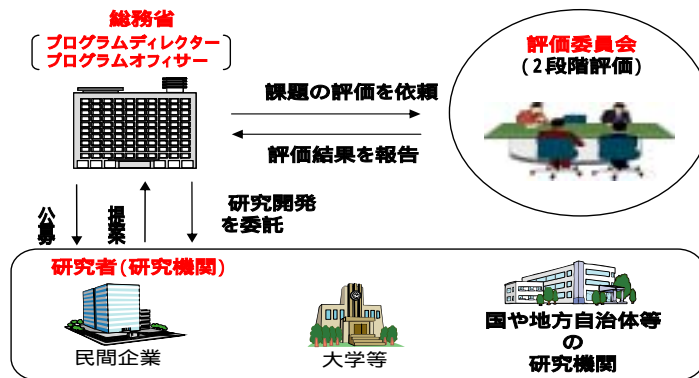
若手先端 IT 研究者育成型研究開発（15:00～17:30）【ポスターセッションのみで発表】		
課題番号	課題名	研究代表者
若手 1	柔軟な相互通信環境の動的構成を実現するミドルウェアに関する研究開発	岩手県立大学 橋本 浩二
若手 2	簡単映像コンテンツ制作のための高度映像検索技術に関する研究	東京大学 青木 輝勝
若手 3	建物内の位置履歴からのユーザモデリングに関する研究	産業技術総合研究所 松尾 豊
若手 4	ユビキタス情報社会に整合する無線タグ用プラスチック FET の試作研究	東京大学 染谷 隆夫
若手 5	発話を重視した日本語 e-Learning システムの開発	北陸先端科学技術大学院大学 井口 寧
若手 6	マルチホップ・マルチセル無線ネットワークのための下位レイヤー技術の研究	名古屋大学 岡田 啓
若手 7	シリコン基板上窒化物系半導体を用いたフィールドエミッタに関する研究	名古屋大学 山口 雅史
若手 8	分散ネットワーク管理のためのエージェントシステムに関する研究	大阪大学 木下 和彦
若手 9	視線知覚・制御モデルの研究開発	(株)国際電気通信基礎技術研究所 蒲池 みゆき
若手 10	半導体・超伝導ハイブリッド光・磁束変換素子に関する研究開発	大阪大学 川山 巖
若手 11	データストリームを利用した高度組み込みシステム向け協調設計に関する研	九州大学 大森 洋一
若手 12	RF-ID 用超小型無線チップ技術の研究開発	北海道大学 日景 隆

戦略的情報通信研究開発推進制度（競争的研究資金）

競争的な研究開発環境の形成により、情報通信技術のシーズの創出と研究開発力の向上、研究者のレベルアップ及び世界をリードする知的財産の創出を図るため、戦略的な重点目標に沿った独創性・新規性に富む研究開発を公募する方式により実施。

- (1) 特定領域重点型研究開発
次世代ネットワーク技術等の戦略的重点領域において、独創性や新規性に富む萌芽的研究・基礎研究から応用研究・開発研究まで幅広く推進
- (2) 研究主体育成型研究開発
若手研究者の育成及び産学官の連携による研究開発を推進
- (3) 地域情報通信技術振興型研究開発
地域における情報通信技術振興や地域社会の活性化等に貢献する
中小・中堅企業と大学等との共同研究を推進
- (4) 国際技術獲得型研究開発
国際的な標準の獲得を目指す優れた研究開発を支援

【14年度】	応募 352件	採択 45件	予算額 15.0億円 (評価、継続経費等を含む、以下同じ。)
【15年度】	応募 348件	採択 46件(新規課題)	予算額 23.9億円
【16年度】	応募 375件	採択 47件(新規課題)	予算額 30.8億円
【17年度】	応募 405件	採択 43件(新規課題)	予算額 31.8億円
【18年度】	応募 341件	採択 43件(新規課題)	予算案 32.1億円



プログラム毎の概要

プログラム名		研究期間	単年度研究費 (間接経費除く)
特定領域 重点型研 究開発	次のもの以外	最長3年間	2,000万円
	情報通信新機能・デバイス技術	最長5年間	
研究主体 育成型研 究開発	若手先端IT研究者育成型研究開発	最長3年間	1,000万円
	産学官連携先端技術開発		5,000万円
地域情報通信技術振興型研究開発			2,000万円
国際技術獲得型研究開発			3,000万円